

## 中国地域の経済動向

(2025年10月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

2025年12月18日

(本発表資料のお問合せ先)  
総務企画部企画調査課長 中野 伸二  
電話：082-224-5633  
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

## ～判断の推移～

2025年11月（9月指標中心）

2025年12月（10月指標中心）

基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	⇒
1. 生産動向	弱含みで推移	緩やかな持ち直しの動きがみられる
2. 個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	⇒
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	⇒
4. 景況感	現状、先行きともに前月に比べ上昇	⇒
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	輸出は前年同月比で減少、輸入は増加
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少	公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で減少	件数、負債総額とも前年同月比で増加
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

## 1. 生産動向 ~緩やかな持ち直しの動きがみられる~

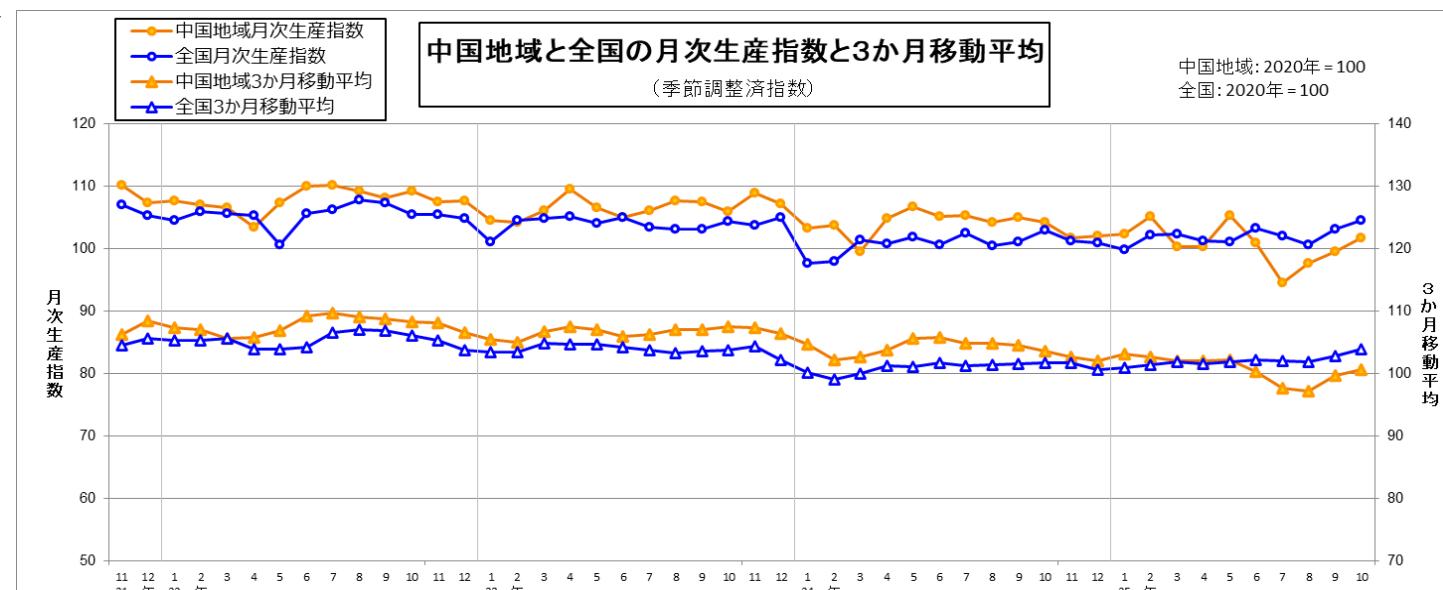
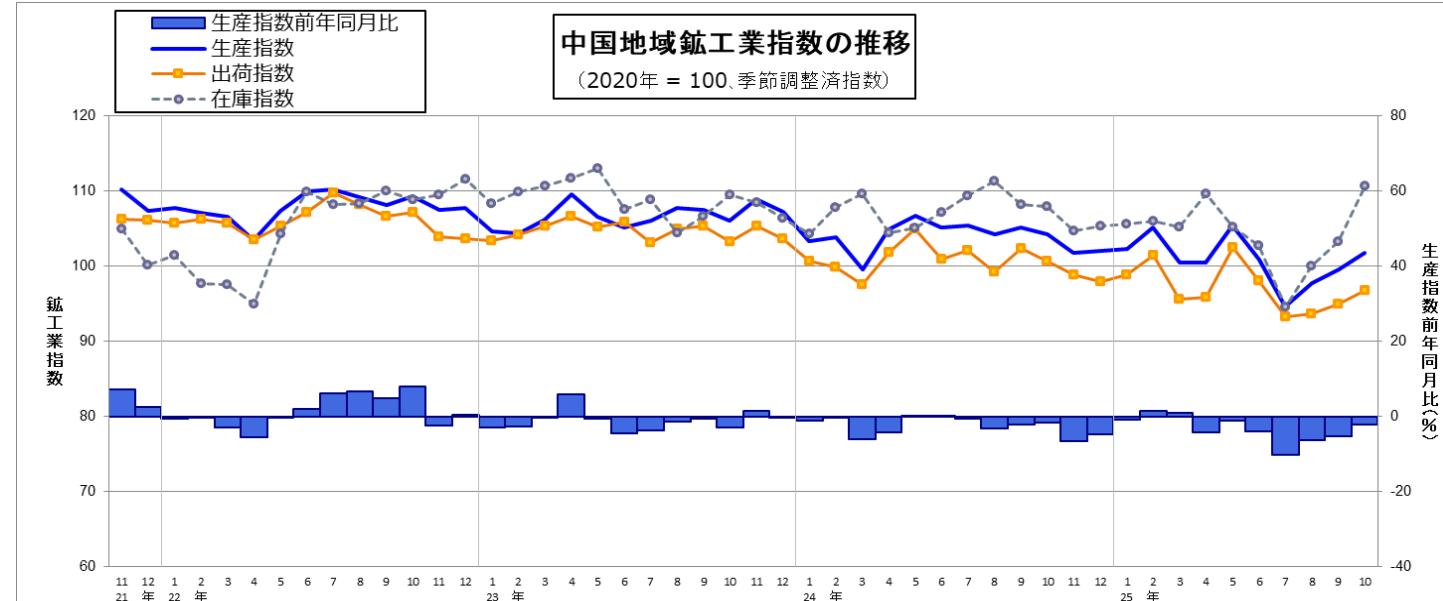
2025年10月の鉱工業生産指数は101.8、前月比2.3%の上昇となった（2020年=100、季節調整済）。

生産を業種別にみると、汎用・業務用機械工業、自動車（乗用車・トラック・主要部品）、食料品・たばこ工業などが上昇し、生産用機械工業、化学工業（除・医薬品）、石油・石炭製品工業などが低下した。

## 【主要業種の動向】

自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、モデルチェンジした一部車種の生産が本格化し水準が上昇傾向。汎用・業務用機械工業は、高い水準で推移する中、海外向け大型機械の生産もあったことから大きく上昇。化学工業（除. 医薬品）は、需給環境が悪化し低い水準で推移する中、定期修理の影響もあり低下。

[詳細データはこちから](#)



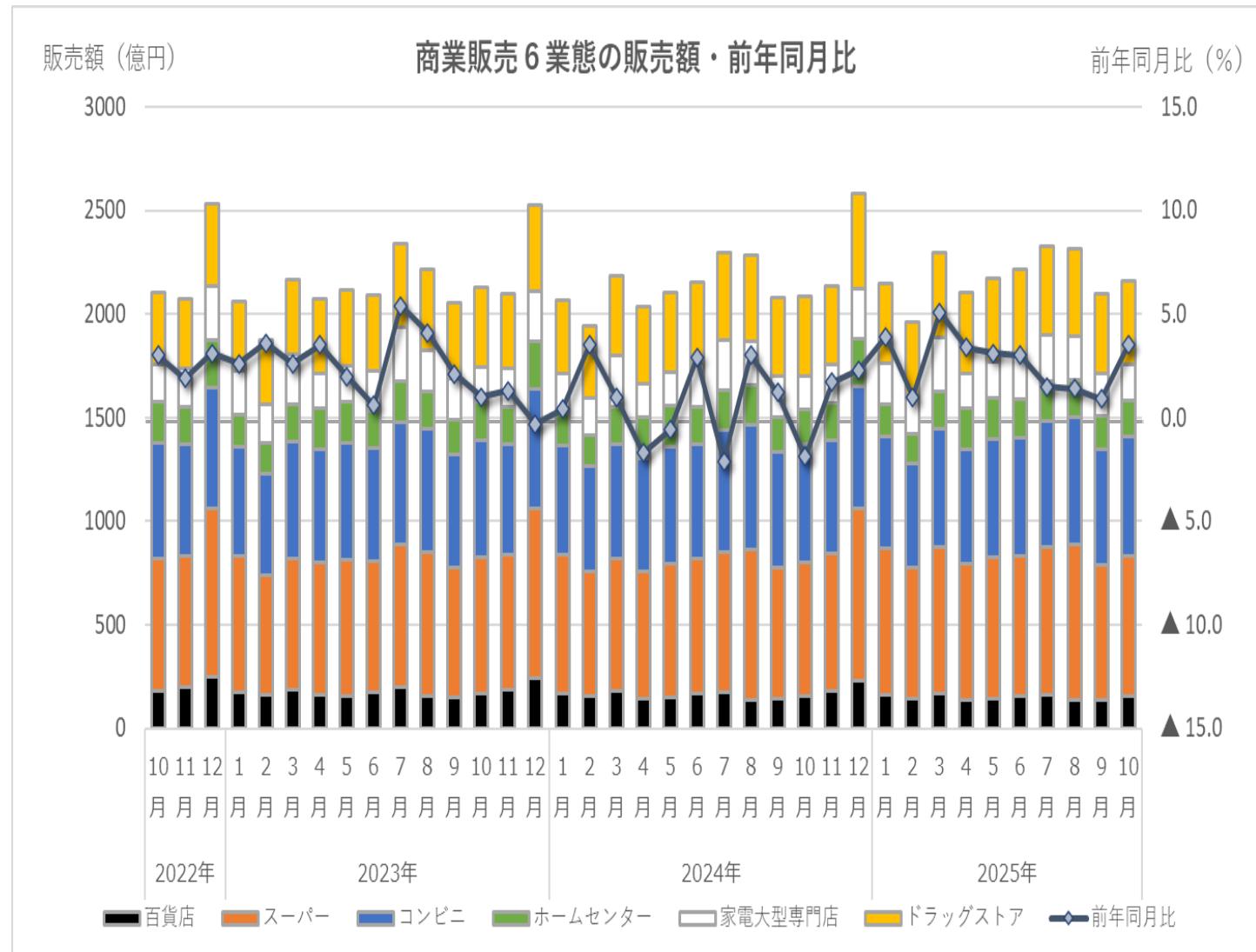
## 2. 個人消費 ~持ち直しの動きに足踏み感がみられる~

2025年10月の商業6業態の販売額は2,159億円で、前年同月比3.5%と12か月連続で前年を上回った。

	6業態における構成比 (%)	販売額 (百万円)	前年同月比		前月の 前年同月比
			(全店舗、%)	(%)	
6業態		215,936	3.5	12か月連続プラス	0.9
百貨店	7.3%	15,749	1.8	2か月ぶりにプラス	▲3.7
スーパー	31.4%	67,728	5.0	12か月連続プラス	3.2
コンビニエンスストア	26.7%	57,598	1.2	2か月ぶりにプラス	▲0.0
ホームセンター	7.9%	17,022	▲1.4	3か月連続マイナス	▲4.7
家電大型専門店	8.0%	17,305	10.5	3か月連続プラス	2.1
ドラッグストア	18.8%	40,534	4.5	46か月連続プラス	2.1

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	339	3.0 %
コンビニエンスストア	3,047	▲ 0.3 %
ホームセンター	402	0.5 %
家電大型専門店	177	1.7 %
ドラッグストア	1,067	2.8 %

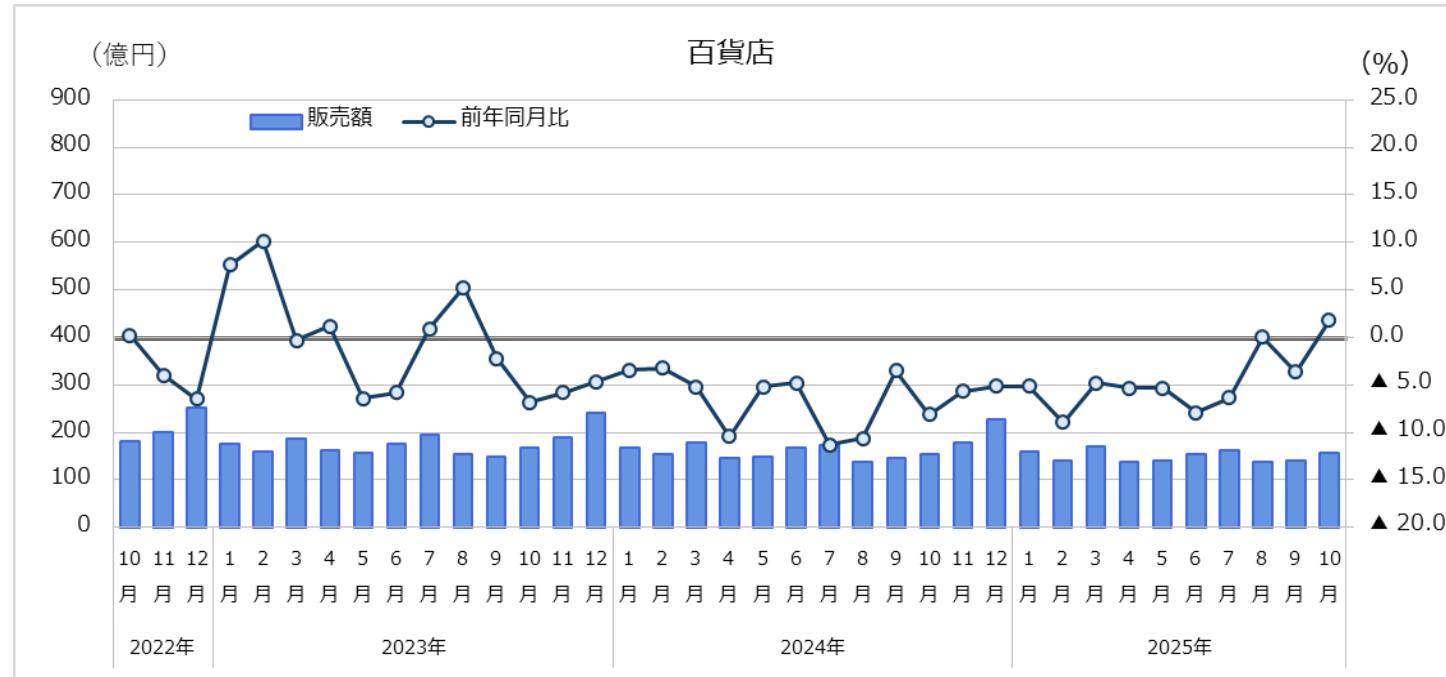
その他のデータはこちらから



## 2. 個人消費

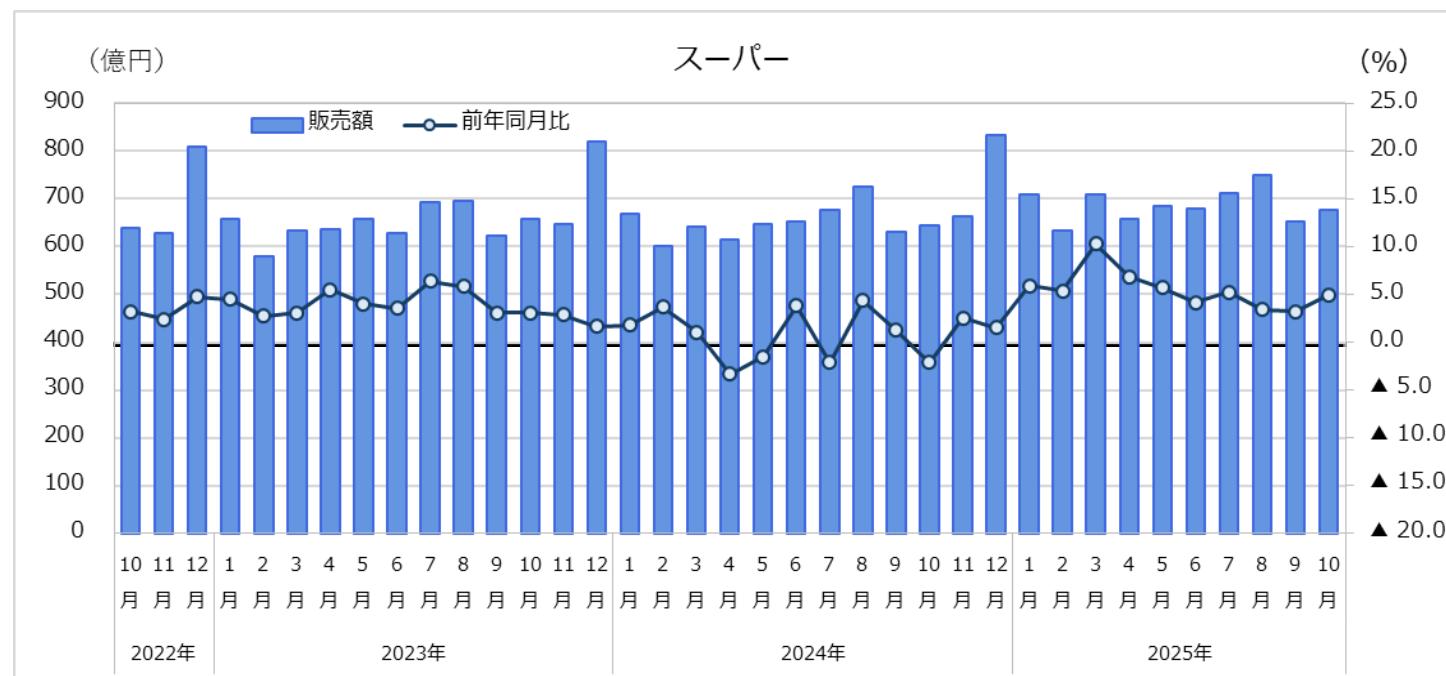
### (1)百貨店の状況

ハンドバッグなど、ラグジュアリーの身の回り品が好調だったほか、家具が好調だった。また、飲食料品は催事が好調だった。そのほか、衣料品は前半の気温高で秋物が低調だったものの、気温低下により後半からは冬物に動きがみられた。



### (2)スーパーの状況

価格上昇により米、卵の売上が増加したほか、豊漁によりさんまが好調だった。また、前半の気温高により殺虫剤が好調だったが、後半からは気温低下によりカイロ、秋冬物の衣料品のほか、おでんや鍋材料に動きがみられた。



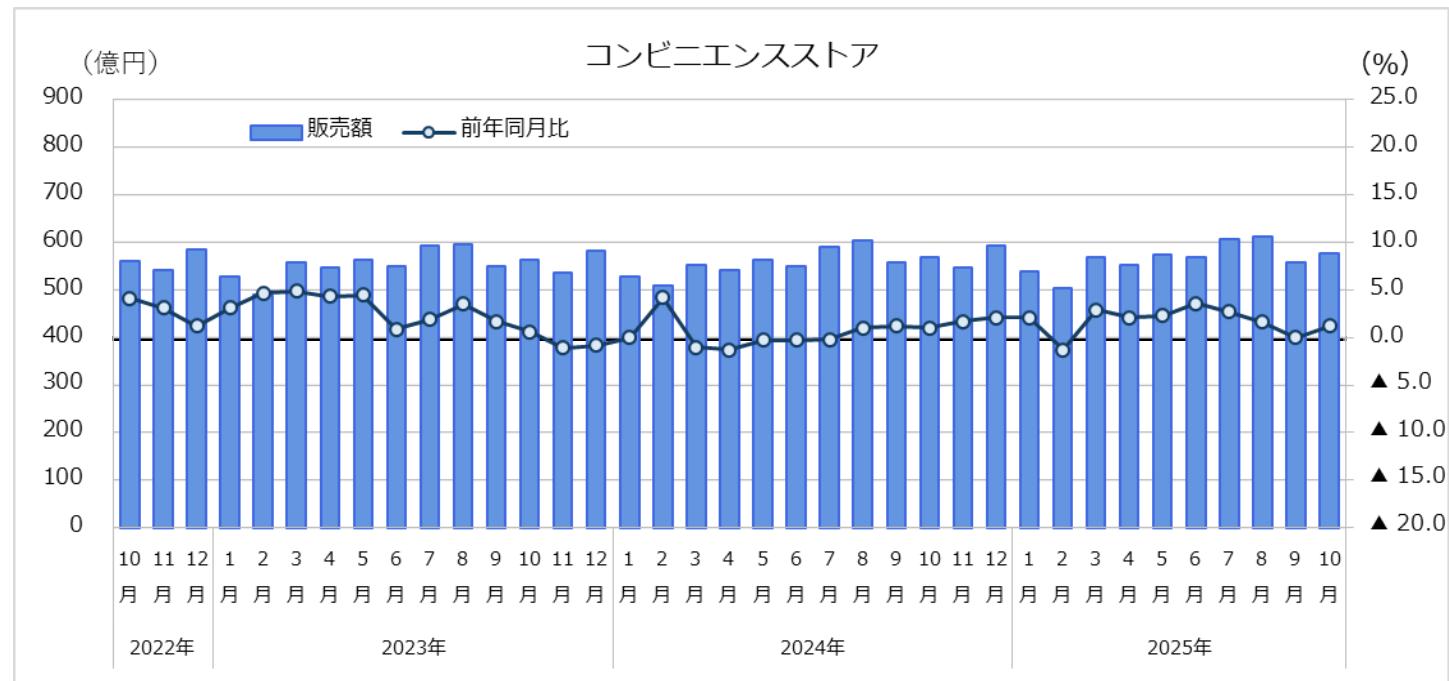
詳細データはこちらから



## 2. 個人消費

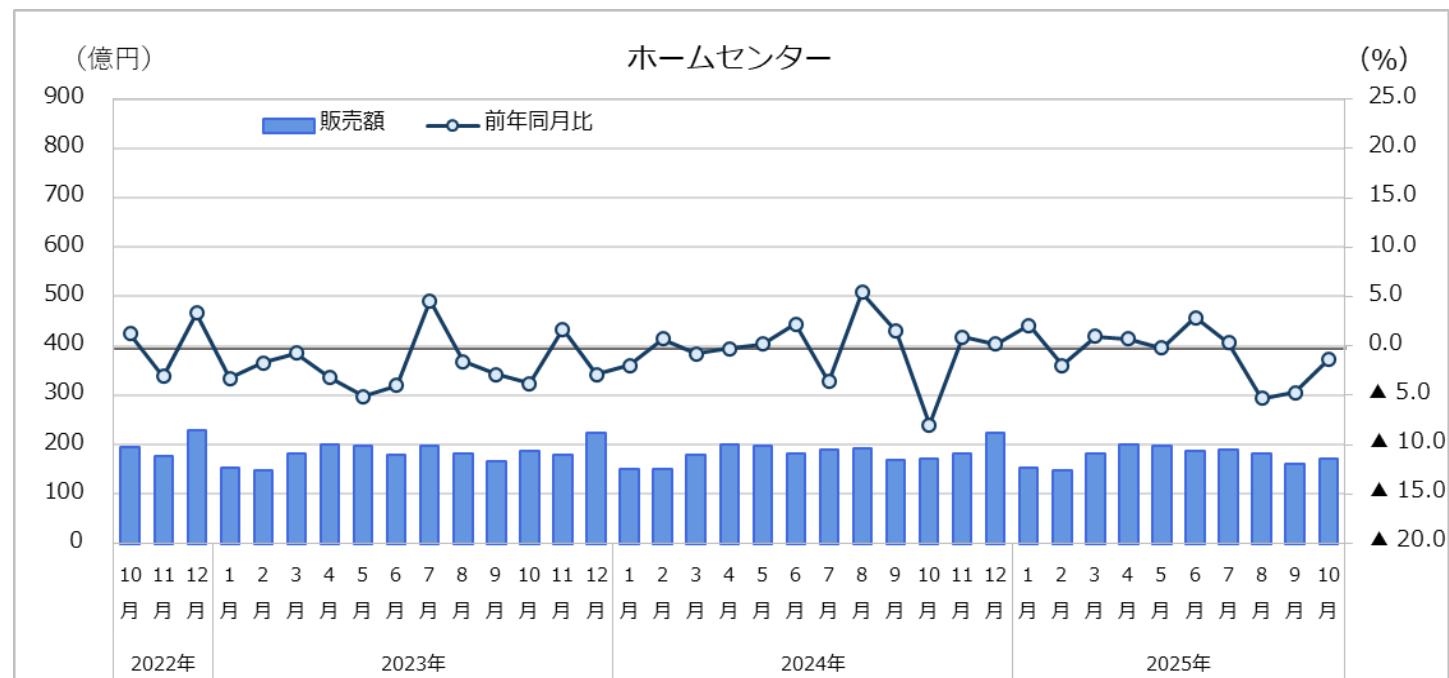
### (3)コンビニエンスストアの状況

価格上昇によりおにぎりや菓子の売上が増加したほか、販売促進効果でパンが好調だった。また、後半からの気温低下によりカップ麺が好調だった一方、価格上昇の影響もあり飲料の動きが鈍かった。



### (4)ホームセンターの状況

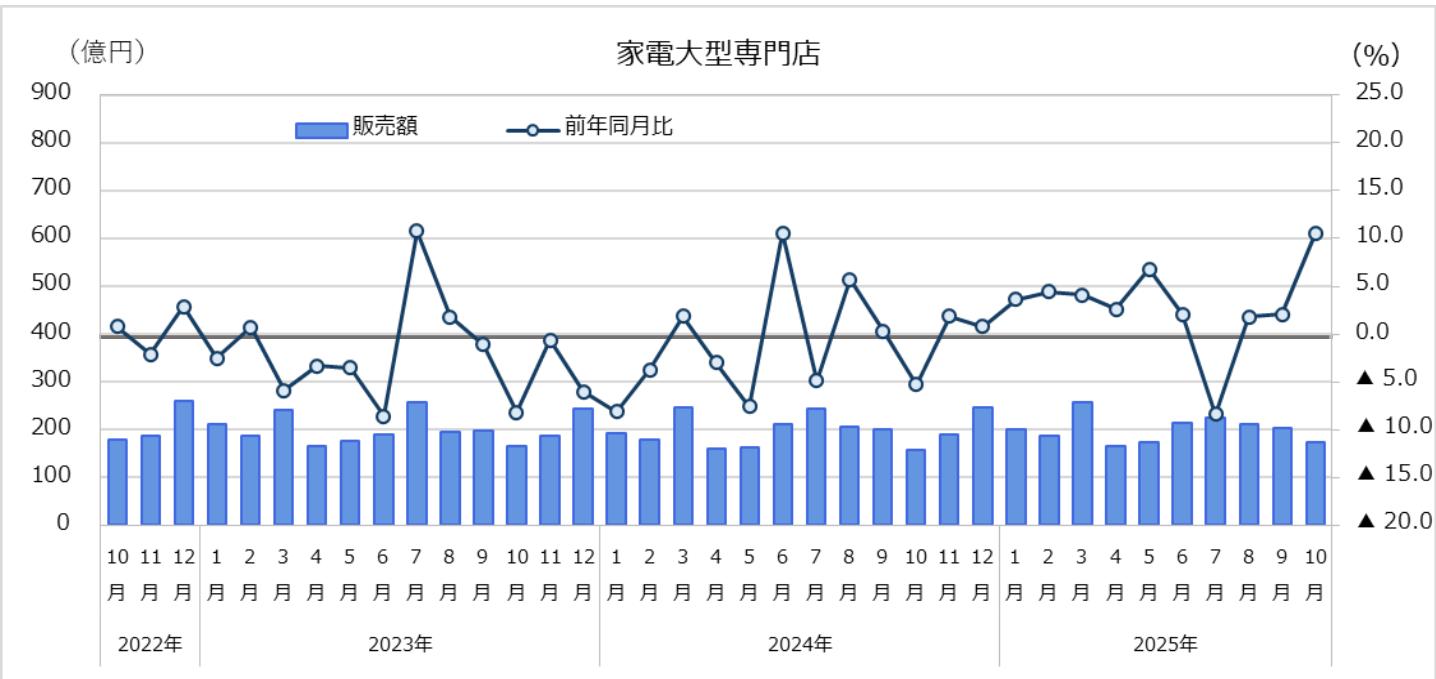
物価高による節約志向の高まりや前年の反動で、塗料や工具・金物類などのDIY用品が低調だった。また、ペット用品の動きが鈍かった。一方、価格上昇により米の売上が増加したほか、後半からの気温低下により暖房用品や灯油に動きがみられた。



## 2. 個人消費

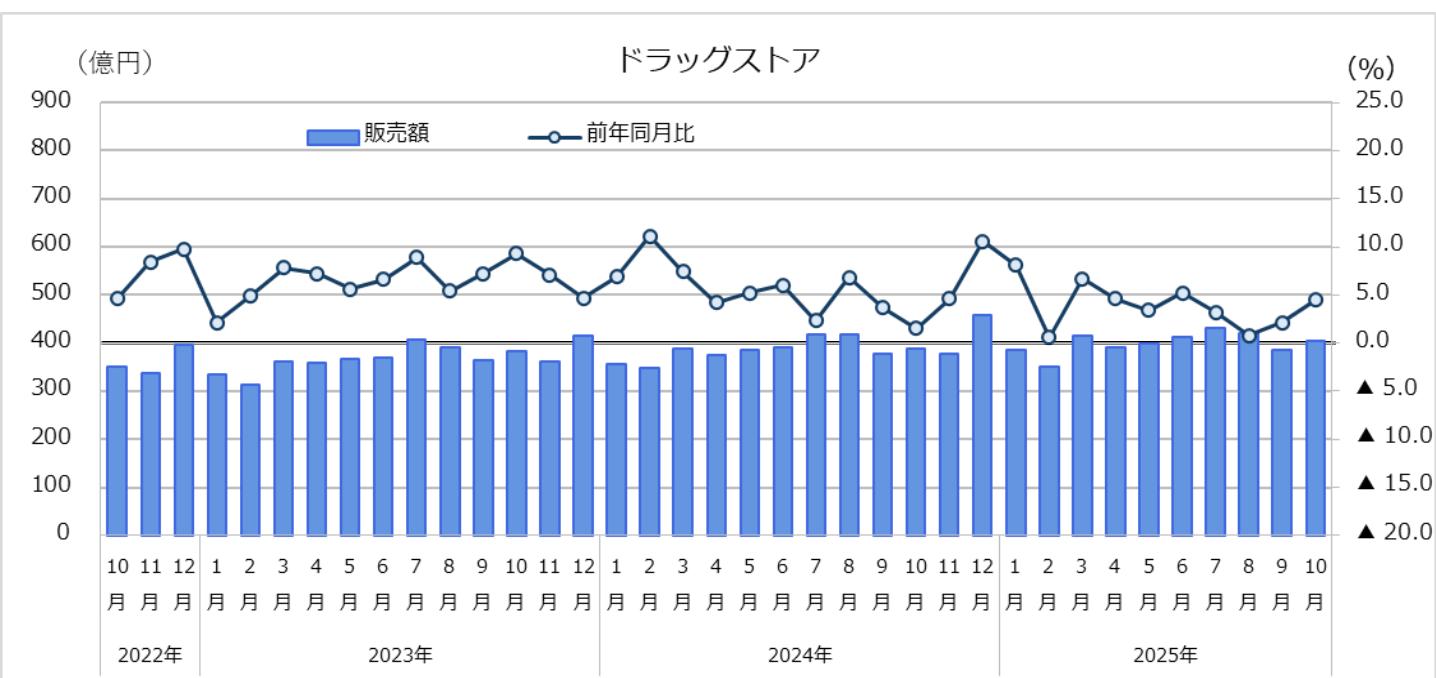
### (5) 家電大型専門店の状況

引き続きOSのサポート終了に伴う買い換え需要でパソコンが好調だった。また、販売促進効果により携帯電話が好調だったほか、高単価なモデルが好調だったテレビにも動きがみられた。



### (6) ドラッグストアの状況

価格上昇により米や飲料、衣料用洗剤の売上が増加したほか、開局した調剤薬局の認知度向上により、調剤医薬品が好調だった。一方、前半の気温高によりリップやハンドクリームは伸び悩んだ。



## 2. 個人消費

### ●乗用車新車登録・届出数

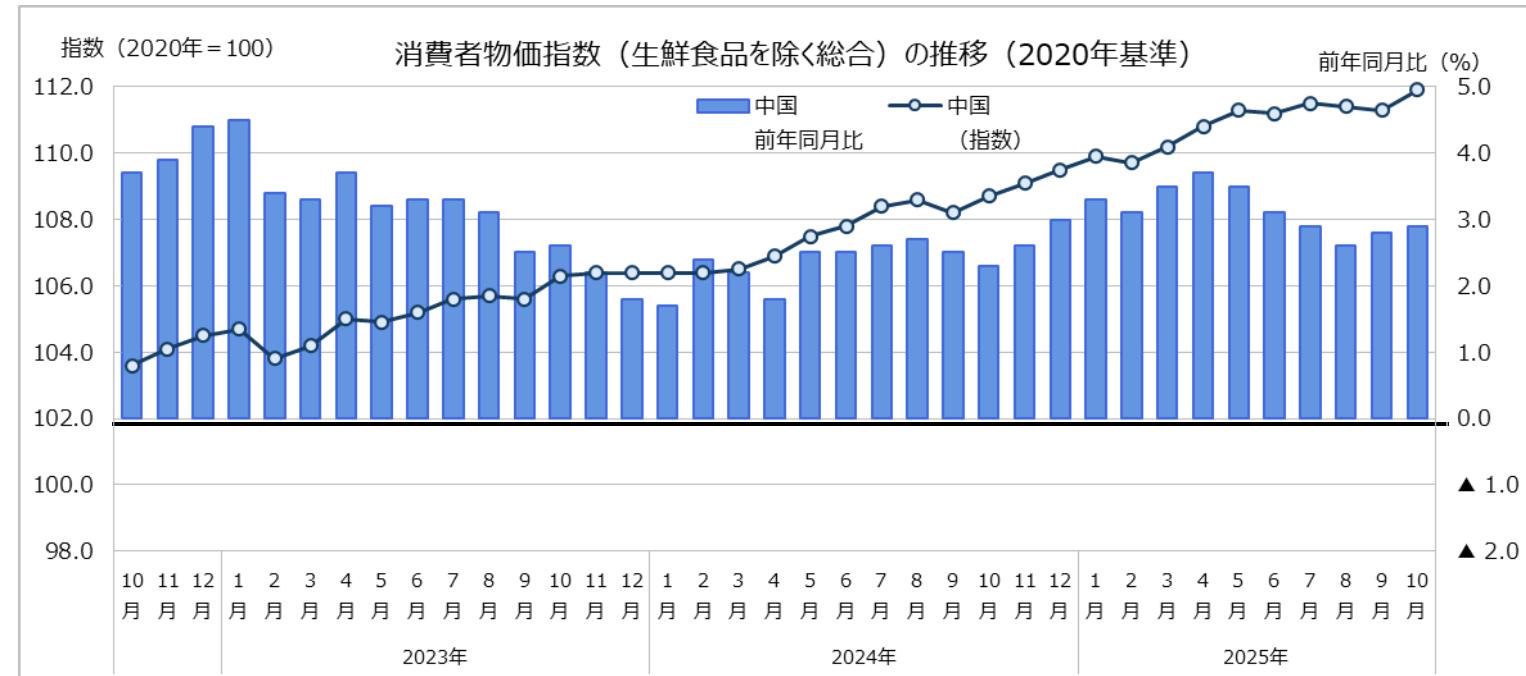
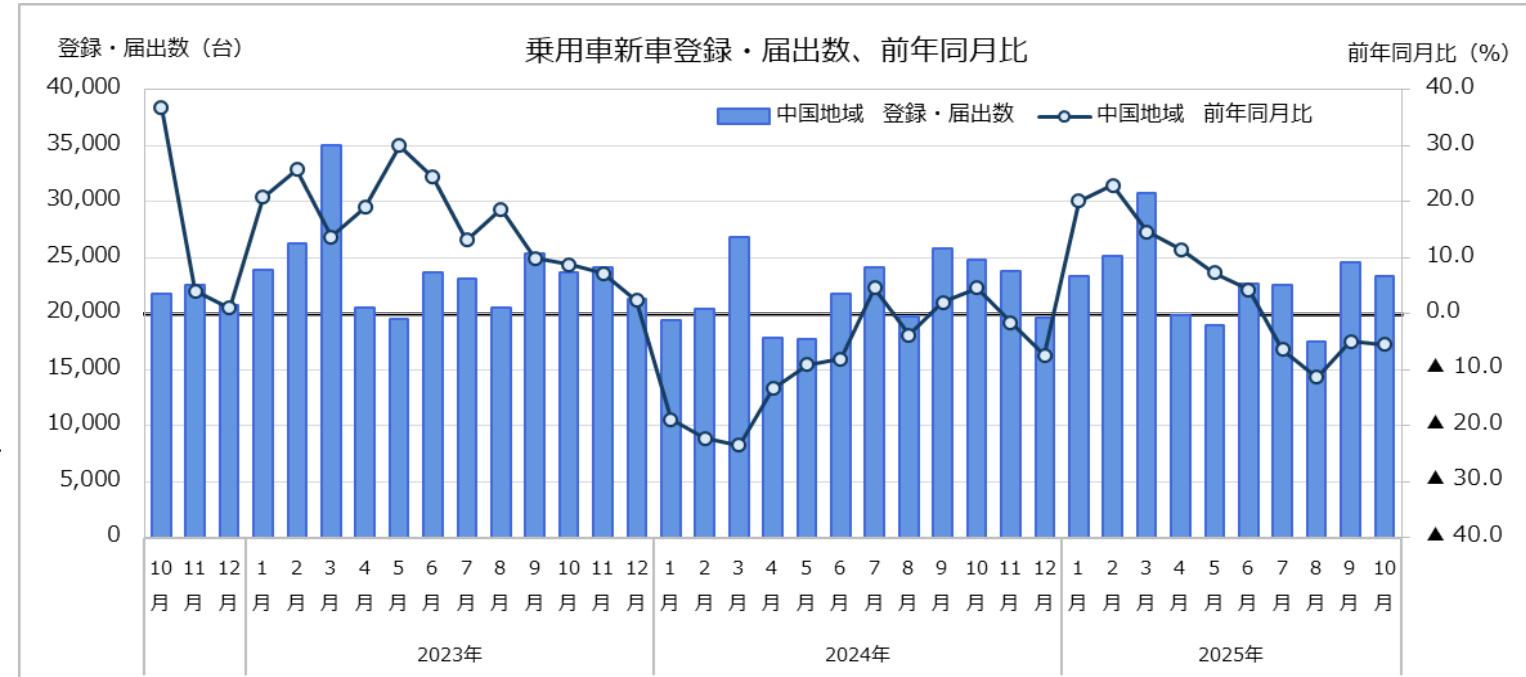
2025年10月の乗用車新車登録・届出数は、軽乗用車が前年同月を上回ったものの、普通乗用車、小型乗用車が前年同月を下回り、合計では前年同月比▲5.5%と4か月連続で前年を下回った。

(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

### ●消費者物価指数（中国地域）

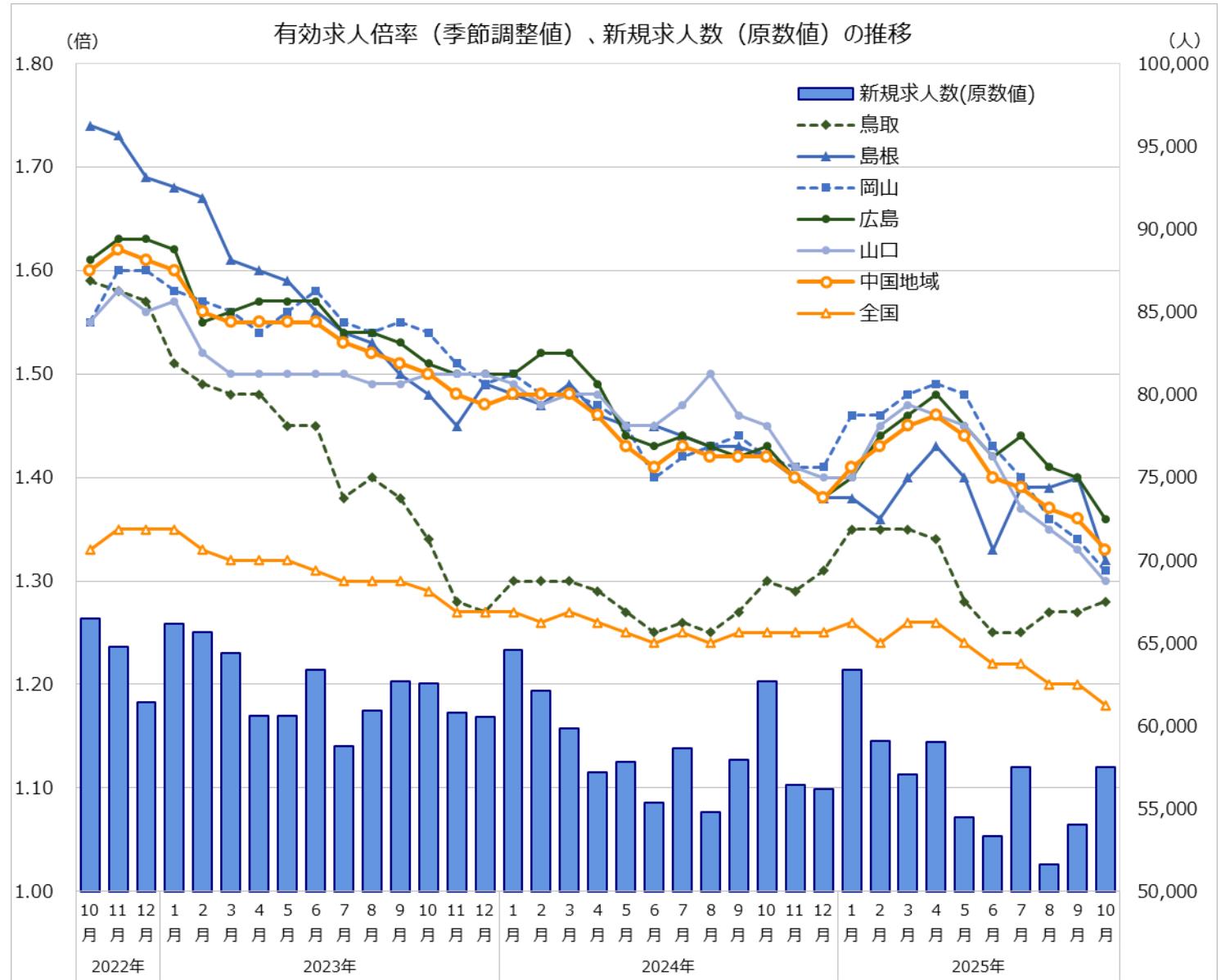
2025年10月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は前年同月比2.9%の上昇となった。

(資料) 「消費者物価指数」（総務省）



### 3. 雇用 ~有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少~

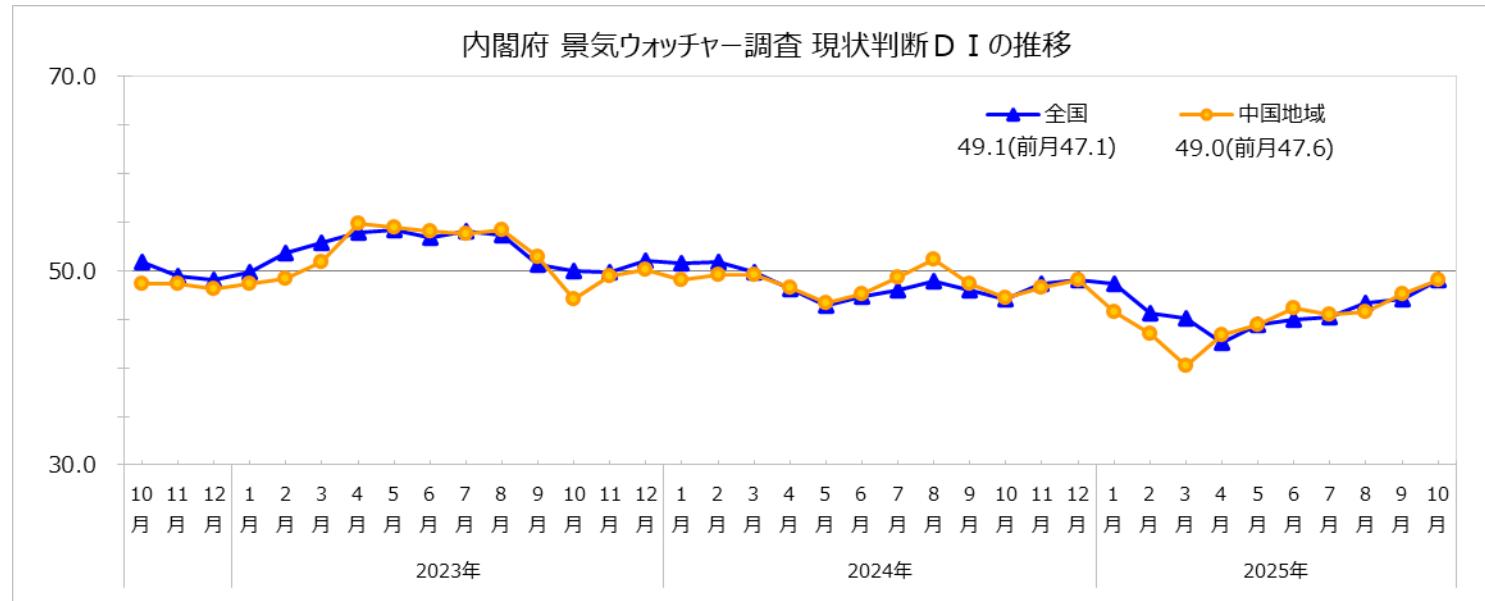
2025年10月の有効求人倍率は、1.33倍で前月の値を0.03ポイント下回り、6か月連続の低下となった。また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲8.3%で6か月連続の減少となった。



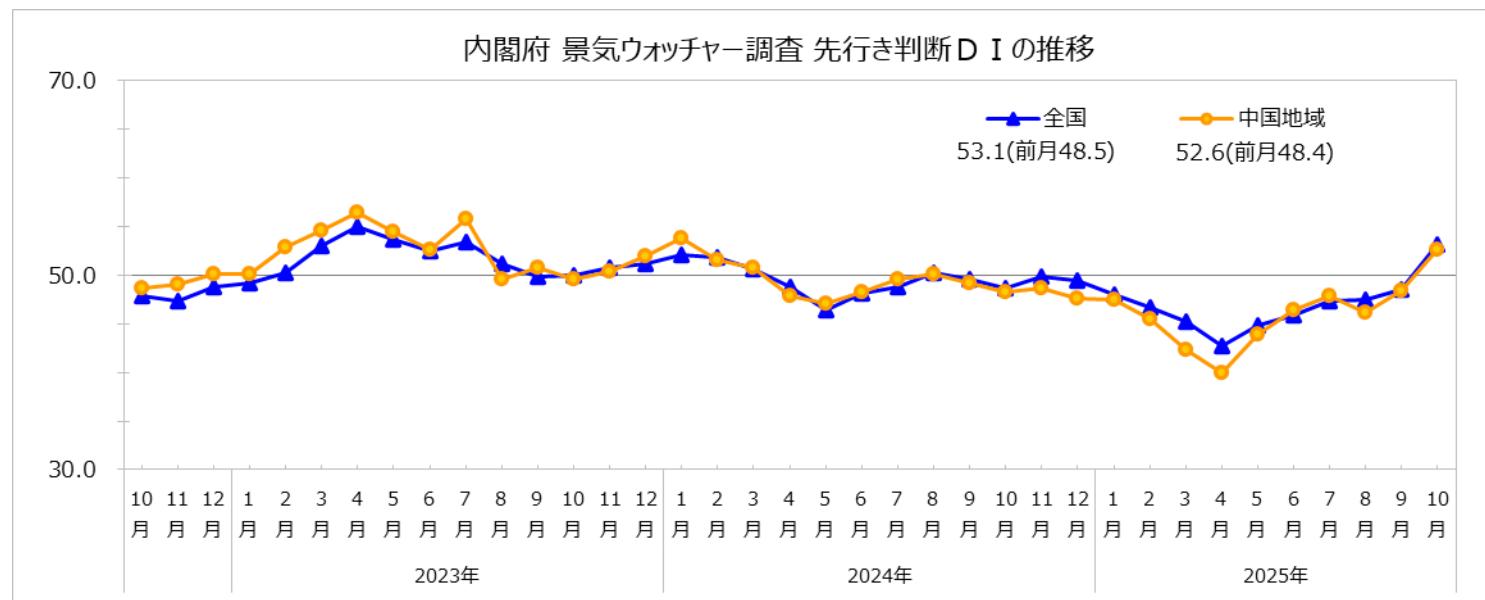
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

## 4. 景況感 ~現状、先行きとともに前月に比べ上昇~

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和7年10月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は49.0となり、前月差1.4ポイントの上昇となった。

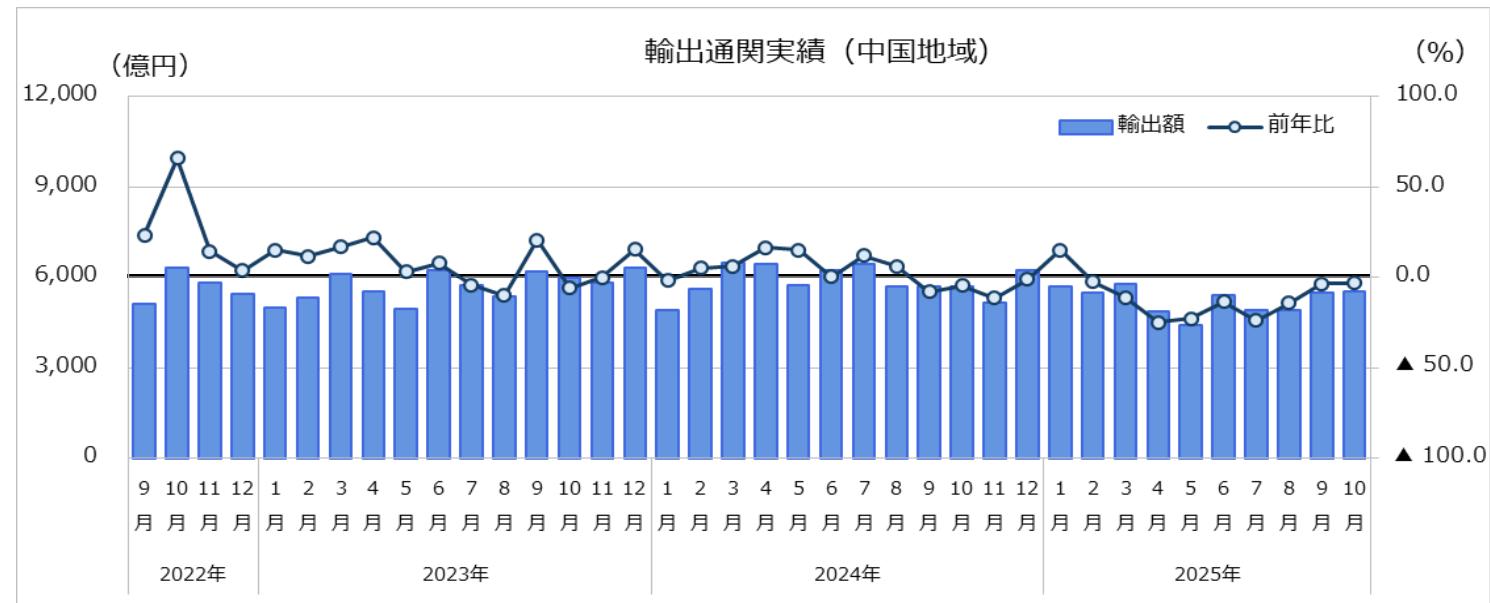


2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは52.6となり、同4.2ポイントの上昇となった。

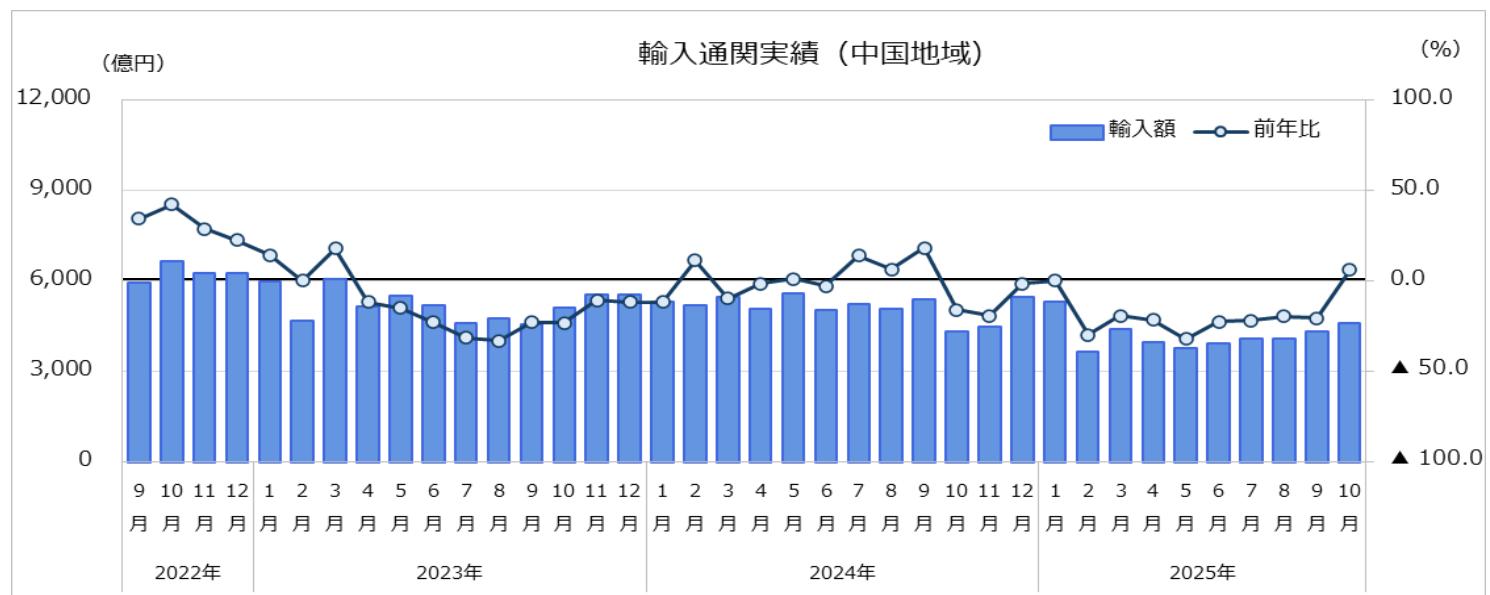


## 5. 貿易 ~輸出は前年同月比で減少、輸入は増加~

2025年10月の輸出は、前年同月比▲3.1%と9か月連続で前年を下回った。  
品目別では、半導体等製造装置、有機化合物などが前年を下回った。  
地域別では、アジア、西欧向けなどが前年を下回った。



2025年10月の輸入は、前年同月比6.2%と9か月ぶりに前年を上回った。  
品目別では、金属鉱及びくず、石炭などが前年を上回った。



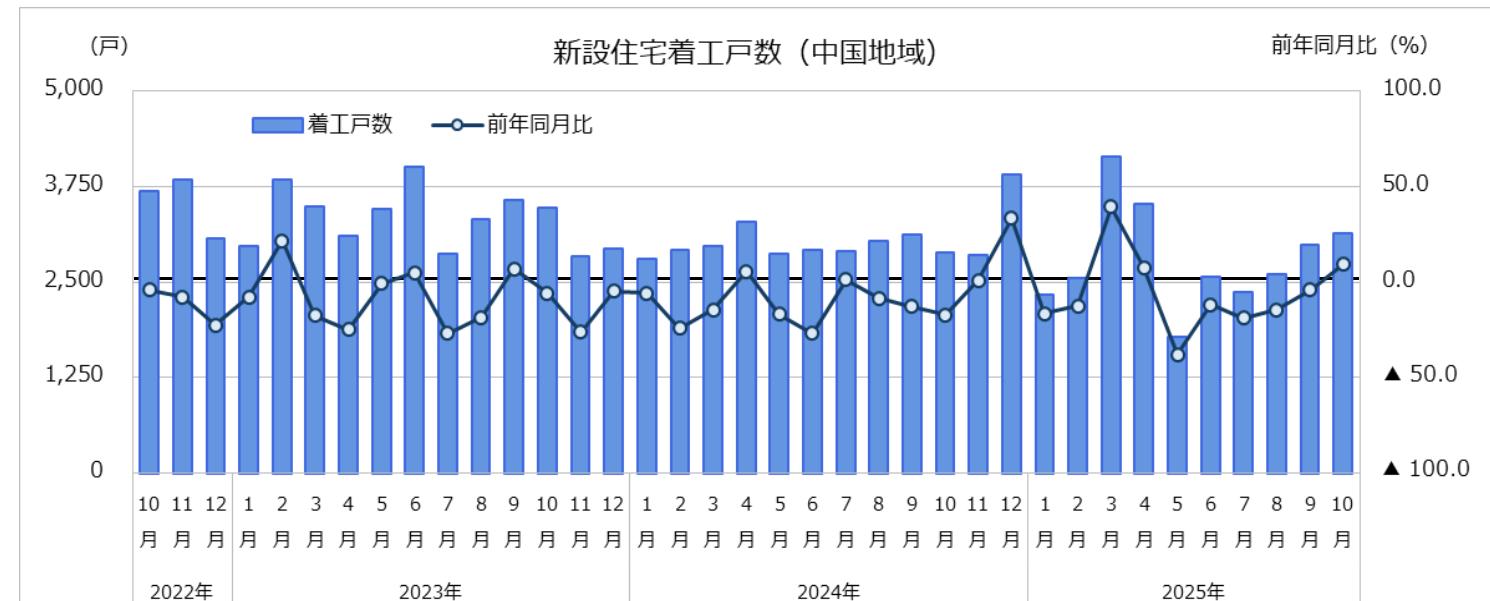
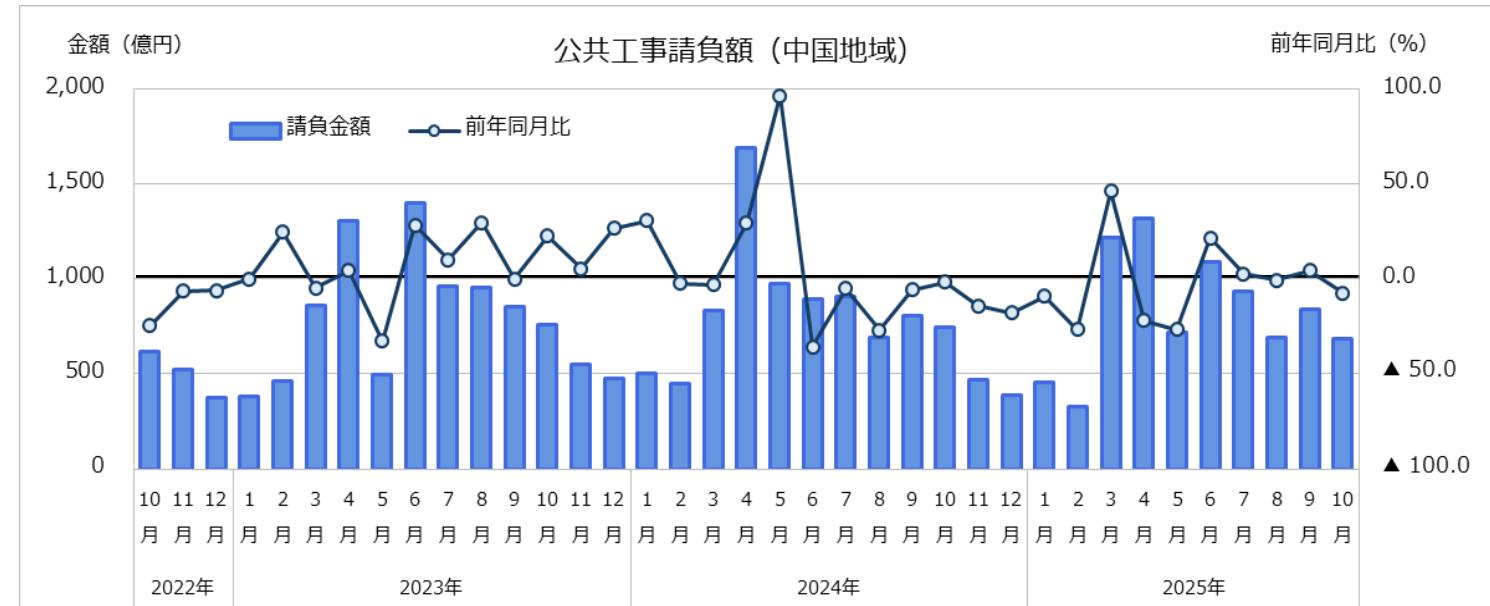
## 6. 建設動向 ~公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加~

2025年10月の中国地域の公共工事請負金額は、国、県で前年を上回ったものの、独立行政法人等、市町村、その他公共的団体で前年を下回った。合計では前年同月比▲7.6%と2か月ぶりに前年を下回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店

2025年10月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、給与住宅で前年を下回ったものの、分譲住宅で前年を上回った。合計では前年同月比9.2%と6か月ぶりに前年を上回った。

(資料) 「建築着工統計調査報告」(国土交通省)



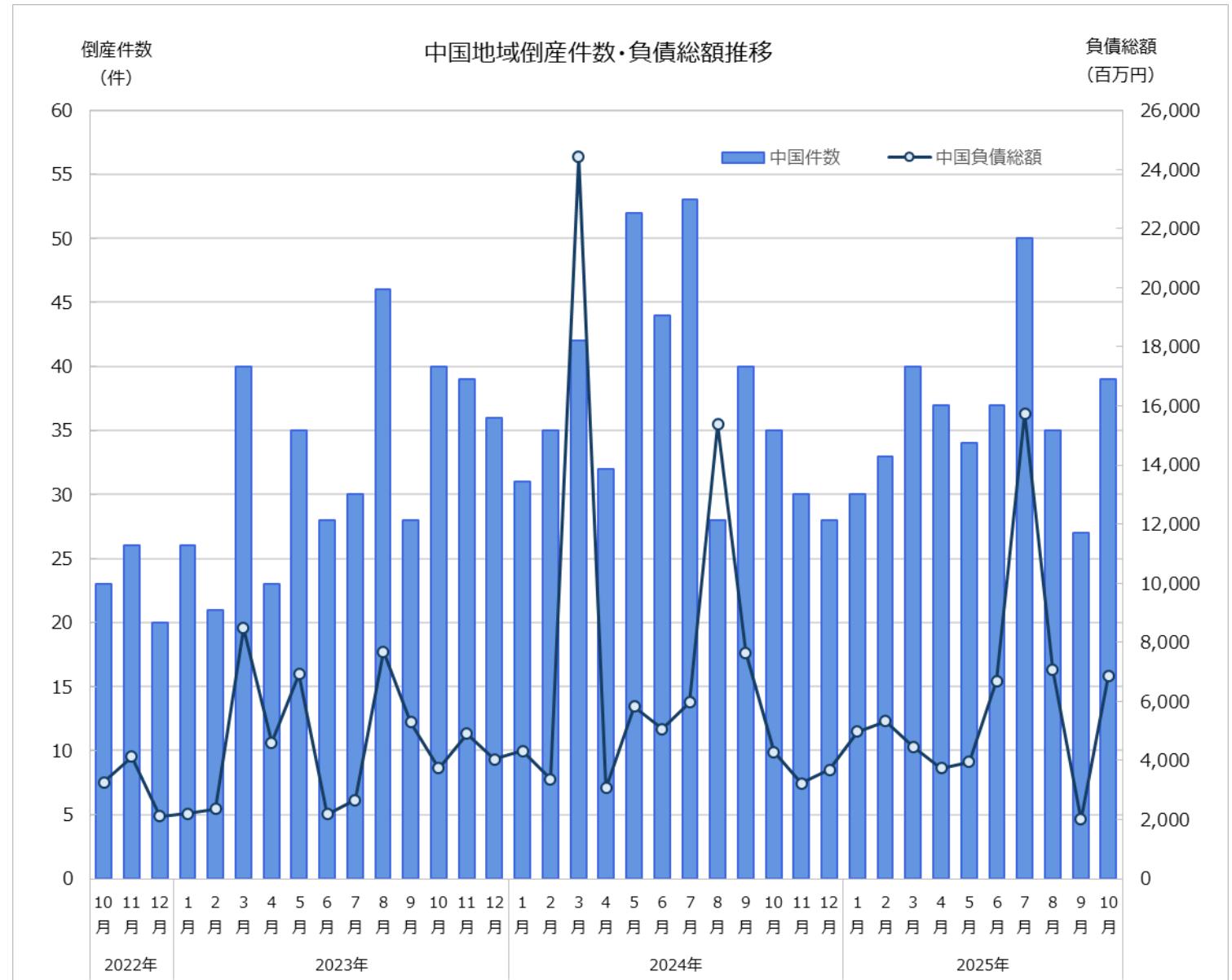
## 7. 企業倒産 ~件数、負債総額とも前年同月比で増加~

2025年10月の企業倒産件数は39件で、前年同月比11.42%と2か月ぶりに前年を上回った。

また、負債総額は68億5,900万円で、前年同月比59.66%と3か月ぶりに前年を上回った。

業種別にみると、サービス業他が13件、建設業及び製造業が8件、卸売業が5件などとなった。

原因別にみると、販売不振が32件、過小資本及び既往のシワ寄せが2件、他社倒産余波、売掛金回収難及びその他が1件となった。

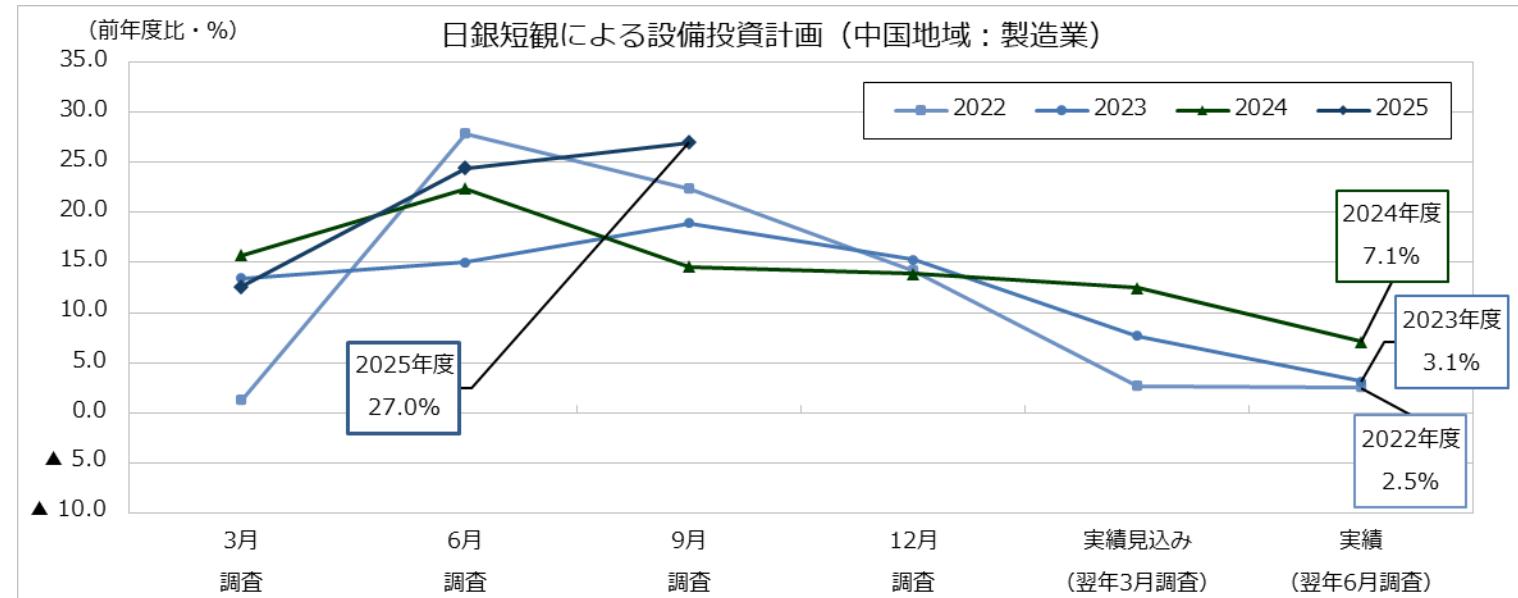
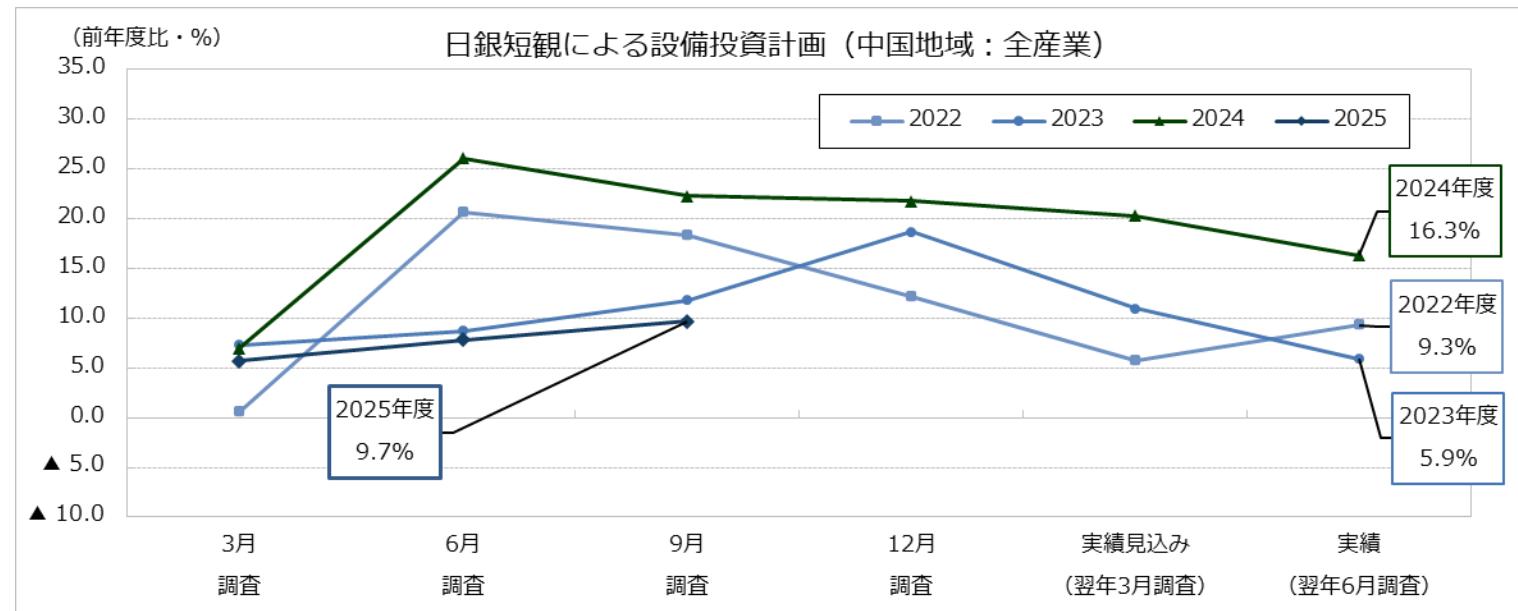


(資料) 「中国地区企業倒産状況」 ((株)東京商工リサーチ)

## 8. 設備投資～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2025年9月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比27.0%、非製造業が同▲6.2%となり、全産業では同9.7%となっている。

(注) 横軸に初回調査（3月調査）から実績が確定する翌年6月調査までの6回調査を取り、毎年度の設備投資計画について、調査毎の前年比の足取り（修正パターン）をグラフで示したもの。



(資料) 「企業短期経済観測調査」（日本銀行広島支店）